



# 農業構想の考え方

## 1 策定の趣旨

「新潟市農業構想」は、新潟市農業及び農村の振興に関する条例に示された基本理念に基づき、産学官民の協働によって、食料、農業及び農村に関する施策を総合的かつ計画的に推進することを目的としています。

### 新潟市農業及び農村の振興に関する条例の基本理念

#### 食料

- 安心で安全な農産物の安定的な生産
- 地場農産物の地域内の流通及び消費の促進

#### 農業

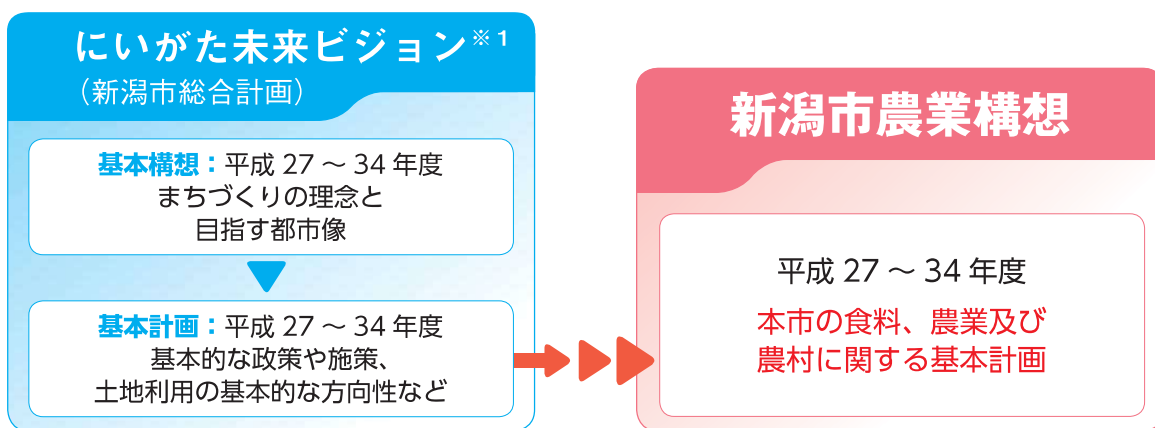
- 農地・農業用水等の農業資源及び多様な担い手の確保とこれらの効率的な組み合わせ
- 自然環境と調和した持続的な農業の発展

#### 農村

- 良好な景観の形成、洪水の防止、生態系の保全等の多面的機能の維持
- 農産物の生産、生活及び地域活動が共存する場として整備、保全

## 2 位置付け

本構想は、新潟市農業及び農村の振興に関する条例第8条に規定される、本市の食料、農業及び農村に関する基本計画となるもので、新潟市総合計画の農業部門に関する計画として位置づけられます。



## 3 計画期間

計画期間は、平成 27 (2015) 年度から、平成 34 (2022) 年度までの 8 年間です。ただし、社会経済状況の変化や進捗状況等を踏まえて、内容の見直しを検討します。



# 新潟市の農業・農村の現状と課題

## 1 現状



### 日本一の水田農業地帯・多様な農産物の産地です

- 本市は、日本一の水田面積を有する農業地帯です。
- コシヒカリをはじめとする米のほか、花き・野菜・果樹、畜産など、地域の特性を活かした多様な農畜産物を生産する日本有数の食料生産・供給基地です。



新潟市産コシヒカリ

### 本市の農畜産物生産地



注) 図中は主な生産地を記載



新潟市産チューリップ

本市では、全国に誇る自慢の農畜産物を「食と花の銘産品」に指定し、その生産振興や販売促進、ブランド化に向けた取り組みを支援しています。



### 大規模専業農家や兼業農家など、様々な農家に支えられています

- 本市の農業は、大規模及び中小規模の専業農家、兼業農家、自給的農家など、多様な担い手により支えられています。
- 農業就業者の高齢化は全国と同様に進んでおり、農家数、農業就業人口は共に減少傾向にあります。一方、65歳未満の農業就業者割合は全国や新潟県全体と比較して高く、新規就農者も毎年確保されているなど、比較的若い担い手が多いという特徴があります。



稲刈り



女池菜の摘み取り



日本なしの収穫



かきのもと(食用菊)の収穫

## 農地は市域の約半分を占めますが、減少傾向にあります

- 本市の農地は、海岸沿いの砂丘部と水田中心の広大な平地部に分けられ、水田と畑で市域の約半分を占めています。
- 水田・畑共に耕地面積は減少傾向にあり、全国の米どころと比較しても減少率が高い状況です。しかし、荒廃農地面積は平成 20（2008）年以降横ばい傾向で推移しています。
- 離農等により生じた余剰農地は、販売農家に集積され規模拡大が図られています。

## 国内有数の食品関連産業が集積しています

- 本市には、米菓やかまぼこなど全国シェアトップクラスの食品関連産業が集積しており、農業と食品関連産業との連携の可能性があります。本市では、食に関する様々な産業間のネットワーク化や国際競争力のある高付加価値化などに取り組む『新潟ニューフードバレー構想<sup>\*2</sup>』を推進しています。



新潟市農業活性化研究センター<sup>\*3</sup>

## 農に関わることのできる機会が市内に多くあります

- 市内には、市民農園や直売所など、農に関わることのできる機会が多くあります。また、「いくとぴあ食花」や「アグリパーク」の開設など、子供の頃から「食と農」を学ぶ環境が整備されています。



いくとぴあ食花



アグリパークの体験ほ場



収穫体験

## 2 課題

本市の農業・農村の振興を図るうえで、解決すべき以下の課題があります。

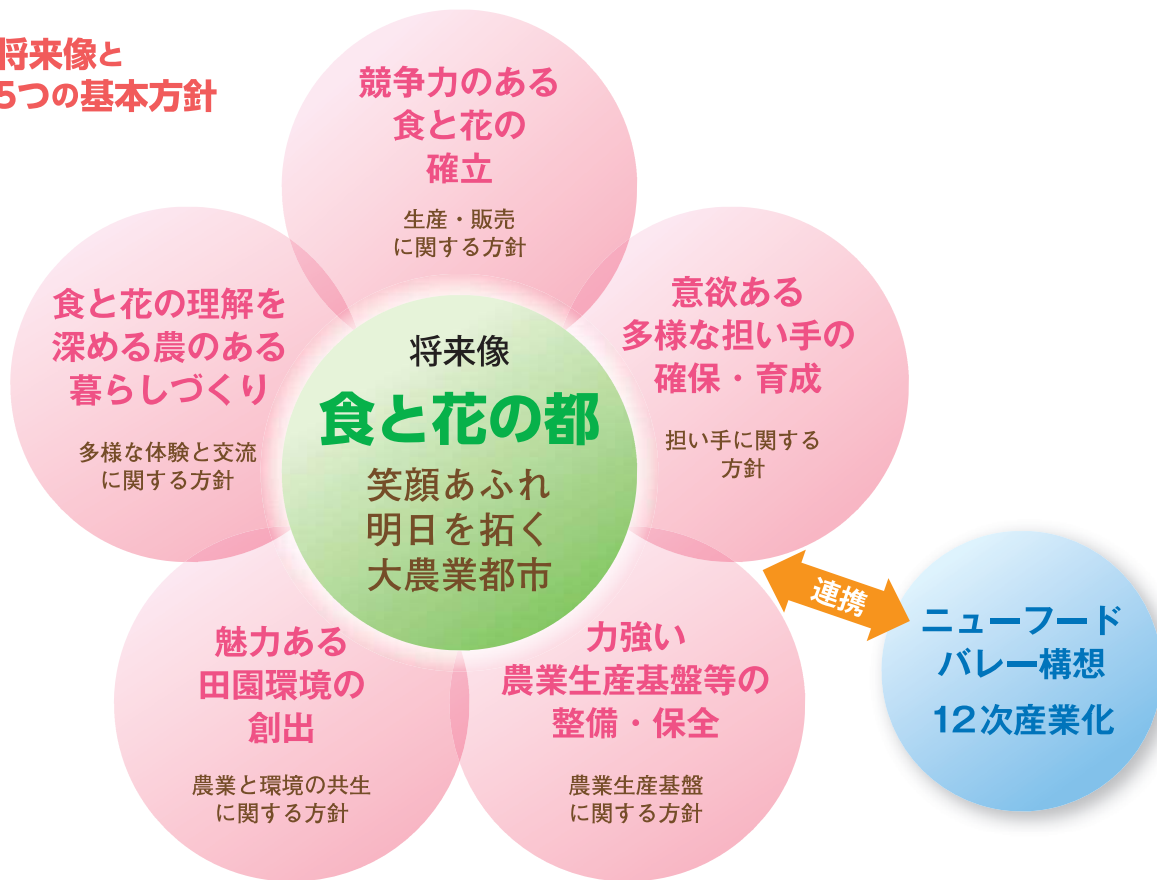
- ① 水田農業を取り巻く厳しい環境に打ち勝つ米づくり
- ② 産地間競争に打ち勝ち、消費者に選ばれる農畜産物（園芸・畜産）の生産
- ③ 安心・安全な農畜産物の生産と地産地消のさらなる取り組み
- ④ 販路拡大及び農畜産物と市のイメージを結びつけるブランド戦略
- ⑤ 現在の担い手の営農継続の支援と次世代を担う多様な人材の確保・育成
- ⑥ 6次産業化への支援や農家と商工業者の連携による商品開発、販売戦略
- ⑦ 食料の重要な生産基盤である農地の確保・保全
- ⑧ 農地の多面的機能の発揮と魅力ある田園づくり
- ⑨ 農村と都市との交流の推進



# 新潟市の農業・農村の将来像

- 本市は、豊かな自然環境や広大な農地を有する田園と高次都市機能の集積が進む都市とが調和・共存した、他市町村にはない特徴を有する「田園型政令市」です。
- 本構想の将来像は田園型政令市のイメージである「食と花の都」を継承し、生産・販売、担い手、農地、環境、交流に関する5つの基本方針のもと「にいがた未来ビジョン（新潟市総合計画）」におけるニューフードバレー構想や、12次産業化<sup>\*4</sup>の取り組みと連携しながら「笑顔あふれ 明日を拓く大農業都市」を目指します。

## 将来像と5つの基本方針



## 将来像

## 食と花の都～笑顔あふれ 明日を拓く大農業都市～

### 笑顔あふれ

おいしく、新鮮で安心・安全な食べ物や農業体験など本市の「農業」を、市内をはじめ国内・海外に提供し続けており、食生活が豊になり農業とのふれあいの場も増え、みんなが新潟市の農業の恵みを享受しています。また、農業が身近にある暮らしに市民が誇りと愛着を持ち、笑顔が絶えず、全国に自慢でき、人々が憧れる暮らし（ライフスタイル）が確立されています。

### 明日を拓く

農業におけるさまざまな課題を克服し、厳しい環境に打ち勝つ強い農業が確立され、明るい未来に向かって発展しています。

### 大農業都市

広大な農地を活かし、多様な農畜産物を生産・供給する大農業都市として成長し続け、強く、しなやかな農業の担い手が確保され、我が国の農業をリードしています。